

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川小学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

- ・ 友達のよさに目を向け、お互い思いやる心を育む。

実施した内容

- ・ 道徳の時間に学年に応じて友情・公正・公平・思いやりについて学習する。
- ・ 児童会が中心になり「人権の花」に友達のよさを書き掲示する。

工夫した点

- ・ 人権への意識が高まった全校一斉に「人権の花」の活動を行なった。
- ・ 「人権の花」で友達から自分のよさを認めてもらうことで自己有用感が高め、相手を思いやる心を育むようにした。
- ・ 児童会が中心に行うことで、主体的に活動できるようにした。

他教科との
関連

道徳科 児童会

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

・ 地域の高齢者と交流することで、高齢者がこれまで生きてきた知恵を教えてもらったり、活動を共にしたりすることで高齢者へ思いやりをもつことができるようにする。

実施した内容

- ・ 各学年で昔語りを聞く。
- ・ 西川小ふるさと楽行
- ・ 清掃ボランティアに来校した高齢者と一緒に清掃する。
- ・ 伝統行事「だんご木」を一緒に行う。
- ・ アルミ缶回収で得たお金で車椅子を購入し高齢者施設へ寄付する。

工夫した点

- ・ 高齢者と一緒に活動をするすることで、老いについて理解を深め思いやりの行動ができるようにする。
- ・ 高齢者に読み語り、縄ない、だんご木等を教えていただくことで高齢者への畏敬の念を育むことができるようにした。
- ・ 学年の学習内容に合わせて、地域の方を講師として協力を依頼した。

他教科との
関連

生活科 総合的な学習 社会科

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害のある人に対して十分理解し、自分はどのようなことができるのか考える。
- ・ 障害の有無にかかわらず、「共生社会」の理念の普及を図る。

実施した内容

- ・ 全児童に対して本校在籍の難病を持った児童について、自分たちができることを考える時間を取った。
- ・ 特別支援学級の児童と共に活動した。
- ・ 5・6年対象に障害者就労支援施設の方より、「共生社会」について講演をいただいた。

工夫した点

- ・ 難病を持った児童については、一斉指導ではなく学年の発達段階に合わせて学年ごとに行った。
- ・ 特別支援学級の児童は、交流学級での一緒に活動する機会をできるだけ多く設定した。
- ・ 委員会や発表等で特別支援学級の児童の活躍を全校生がみられるようにする。
- ・ 実際に障害者と関わって仕事をしている人から話を伺うことで、これから自分たちはどのように共生していくか考えられるようにした。

他教科との
関連

道徳科 社会科（基本的人権）

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川小学校

人権課題

アイヌの人々 等

対象学年・
取り扱った教科等

教職員

目標・人権教育のねらい

- ・ 確かな人権感覚をもち、子どもや保護者に寄り添うことができるようにする。
- ・ 課題解決に向け、積極的にかつ組織的に取り組むことができるようにする。
- ・ 教職員が人権問題について理解を深め指導に役立てる。

実施した内容

- ・ 職員が「人権教育推進研修」に1名参加
- ・ 研修に参加した教員がリーダーなり校内研修会の実施
- ・ 「拉致問題シンポジウム」に教員1名参加
- ・ 校内で復命を行い、人権について研修した。

工夫した点

- ・ 人権教育を推進するために中央への研修へ教員を派遣
- ・ 校内で研修会を行い、教職員の人権理解を行った。
- ・ 研修会では、教員が人権問題について一人一つの課題について調べ学習を行い発表し人権教育の理解を深めた。

他教科との
関連

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

5・6年

目標・人権教育のねらい

・様々な外国の人とコミュニケーションをとることで、文化の違いを知りよさを認め合うことができる。

実施した内容

- ・外国の授業でコミュニケーションツールを学ぶ。
- ・自分の国や町のよさについて考える。
- ・外国について知りたいことを考える。
- ・オンラインを使い外国の方とコミュニケーションをとることで文化の違いについて知る。

工夫した点

- ・コミュニケーションを取る際に、相手を不快にさせないマナーを学び国によって宗教や文化の違いがあることを知ることができるようにした。
- ・自分の国や町のよさを相手にわかるように話すことをとおして、外国の方と積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を養うようにした。
- ・オンラインを使うことで、1つの国の方だけでなくいろいろな国の方と話ができるようにした。
- ・通訳に地域に住んでいる外国人の方に依頼した。

他教科との
関連

外国語・総合的な学習

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

- ・ ICT機器のルールを学ぶ際に、自分が加害者・被害者にならないようにネットで起こる「いじめ」について考えさせることで未然防止する。
- ・ インターネットトラブルの事例からネット危機の実態を正しく知り予防と対策法を学び今後の生活に活かすことができるようにする。

実施した内容

- ・ インターネットやオンラインでいじめになる行動について考え話し合う。
- ・ 児童会・生徒会で「西川メディアの約束」を作成する。
- ・ 外部講師による「インターネットのトラブル」の講演を聞き、様々な危険性について知る。

工夫した点

- ・ 一人一台のタブレット機器使用について学習と合わせ繰り返し学習を行った。
- ・ 保護者の研修会でもネットトラブルについて行い、学校と家庭が連携し取り組むことができるようにした。
- ・ SNSの使用が増えくる5・6年を対象に外部講師による講演を行った。新しい情報を聞くことができたり、より幅広くネットトラブルを考えることができるようにした。
- ・ 小中合同会議でメディアについて話し合いを行った。

他教科との
関連

道徳